

平成27年度
第2回離島振興のあり方検討委員会

婁委員報告

海業分野の離島振興のあり方について

平成27年12月24日

報告の内容

1. 漁業・漁村の現状と課題
2. 離島での海業分野の優良な取組事例
3. 離島で今後行うべき取組・施策

漁業・漁村の現状と課題

漁業

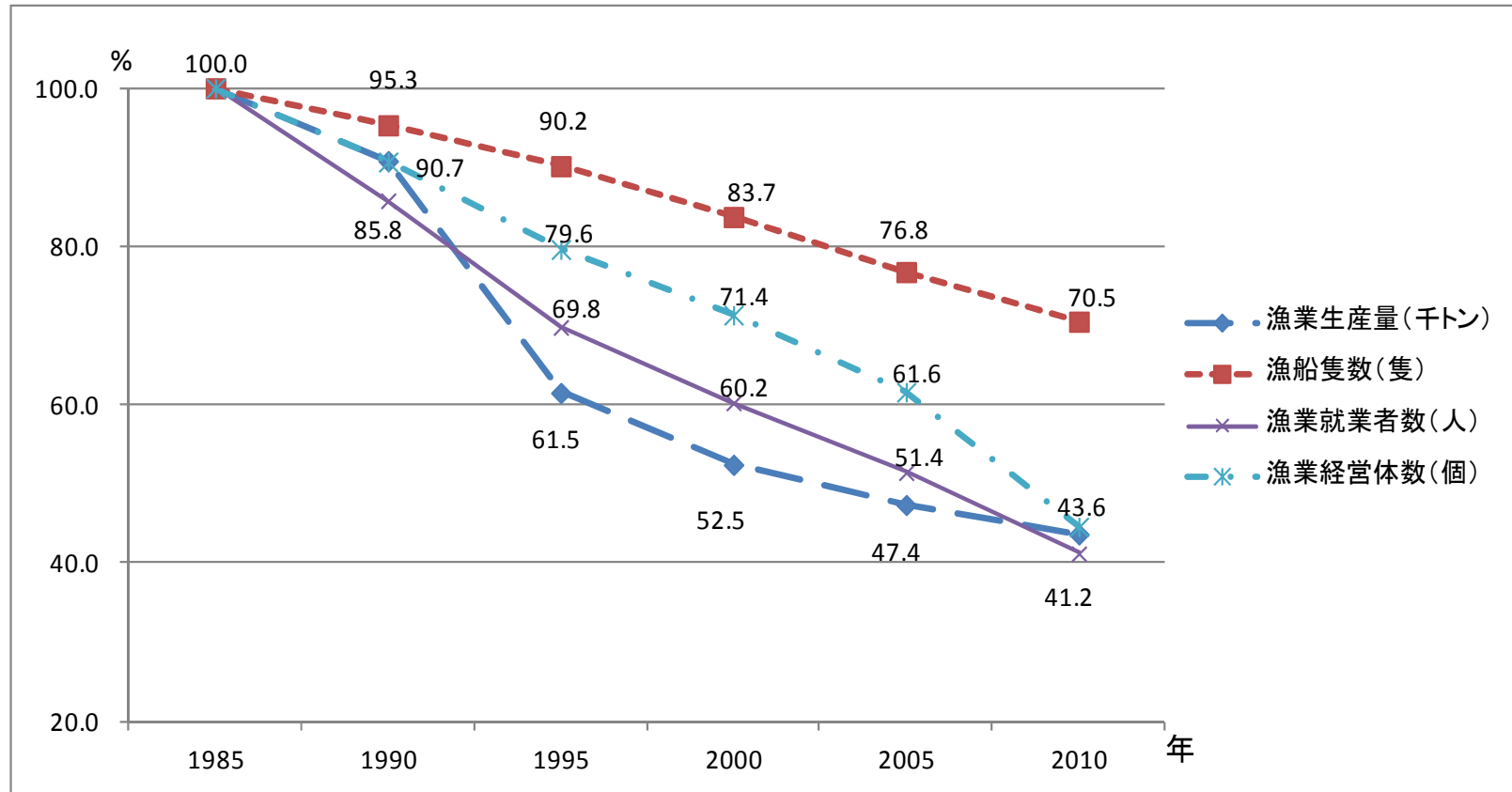


図1-2 漁業生産量・漁船・就業者・経営体の衰退の展開

資料：『漁業・養殖業生産統計年報』および『漁船統計年報』により作成

加工・流通業

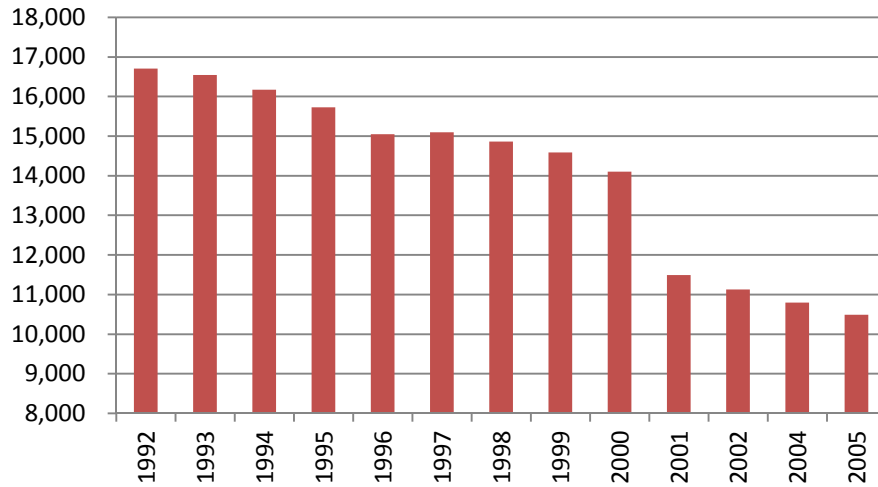


図 水産加工経営体数の推移(水産物流通統計年報)

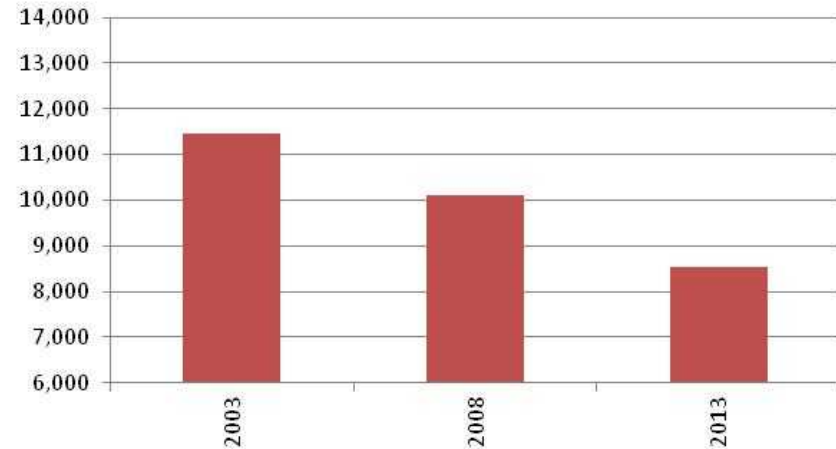


図 営んだ加工工場数の推移(漁業センサス)

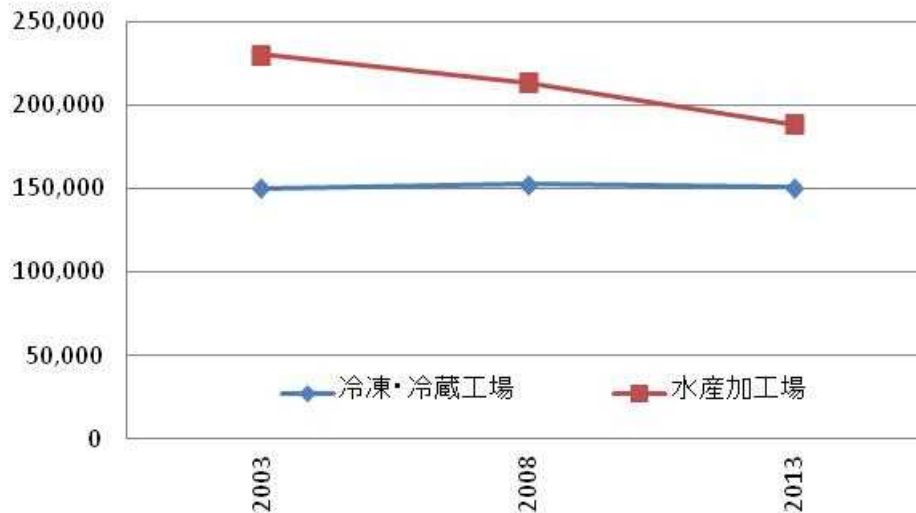


図 水産加工従事者の推移(人)(漁業センサス)

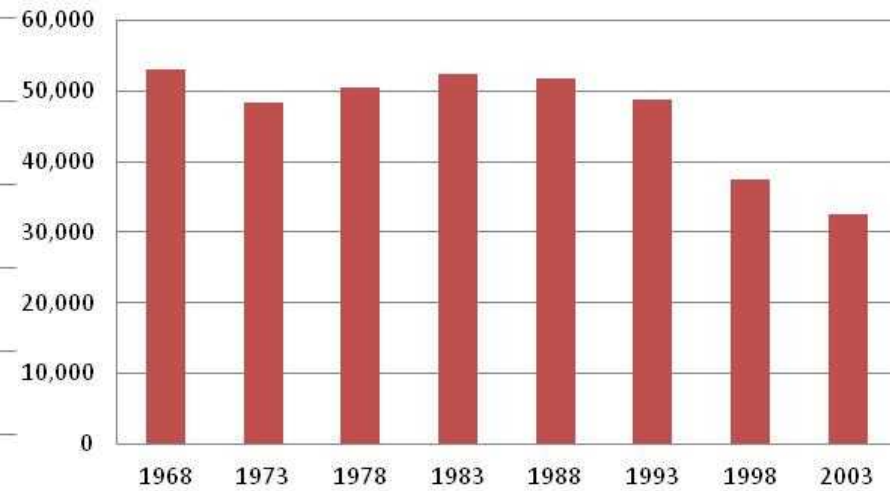


図 水産物買受人数の推移(人)(漁業センサス)

漁村

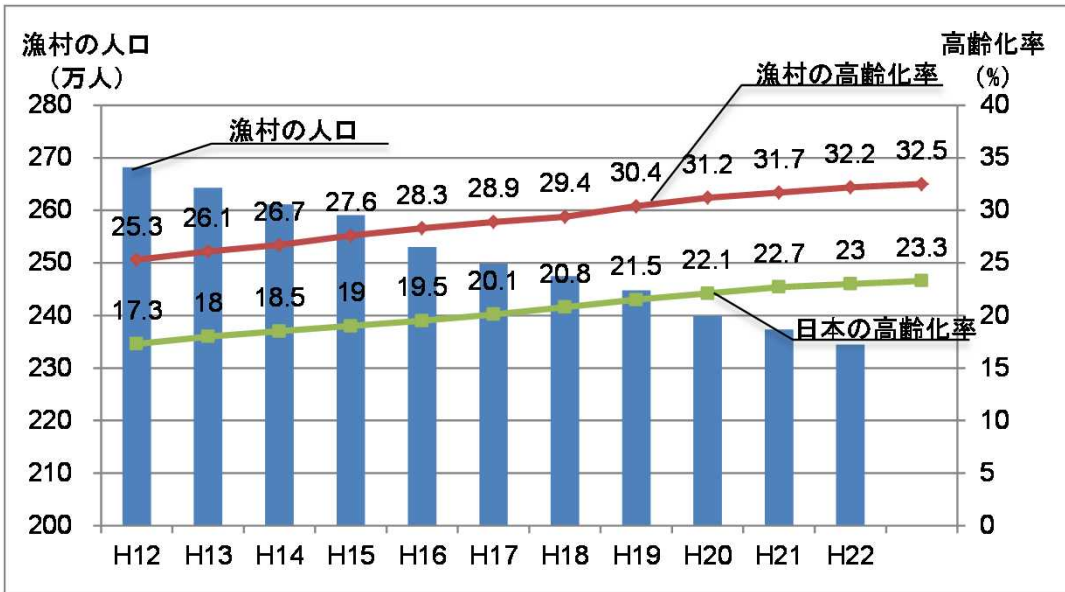


図1-3 漁港背後集落の人口と高齢化率の推移

資料:水産庁「平成23年度水産白書」。漁港背後集落の人口推移と高齢化率は水産庁調べ。全国の高齢化率は2000年、2005年は総務省「国勢調査」、その他の年は「人口推計」による。

注:2011年は、東日本大震災の影響により、岩手県、宮城県、福島県について調査できなかったため、漁港背後集落の高齢化率は3県を除く結果。

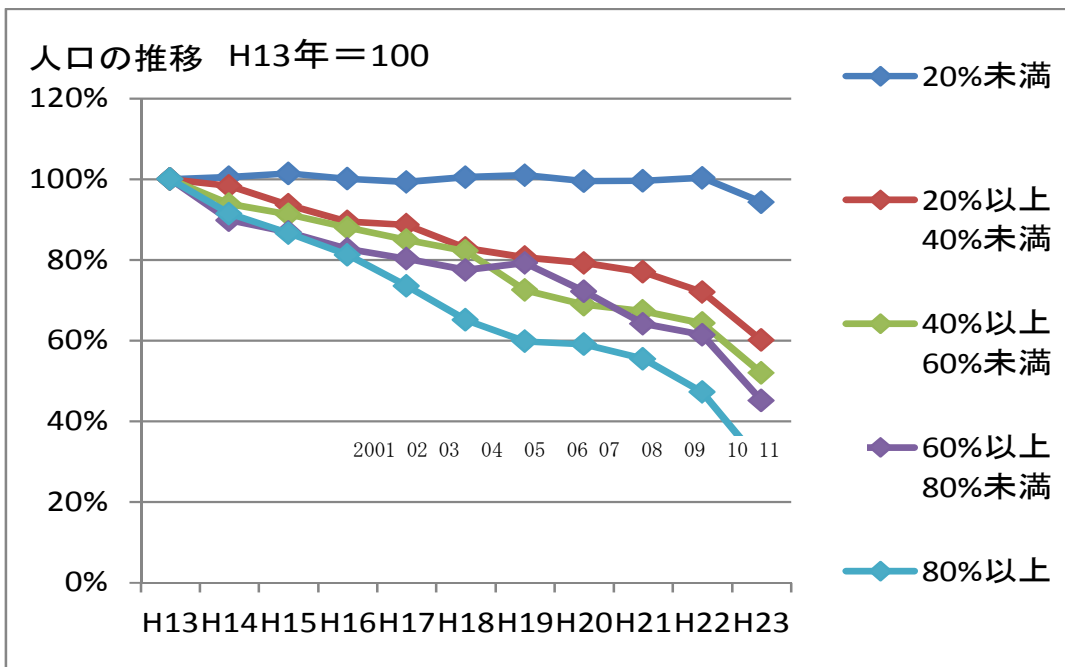


図1-5 漁港背後集落の漁家率別人口推移

資料:水産庁「平成23年度水産白書」。

注:東日本大震災の影響により、岩手県、宮城県、福島県について除く。

課題

既存産業の不振＋くらしの質の低下



過疎化・高齢化・空洞化・・・



「地域力」の低下



国民経済的：食料安全保障問題
地域社会的：地域の未来や将来がない
個別経済的：くらしの質のさらなる悪化

視点

所得確保 + 暮らしの質の保障



産業創出 + 基盤整備



地域資源を活用した新たな地域産業の創出

海業分野の優良な取組事例

事例1～沖縄県渡嘉敷村～

(1) 渡嘉敷村の概要 (h. 18)

@ 離島

@ 純漁村

@ 島民: 355世帯、681人
漁業世帯62

@ 漁業協同組合

62名の組合員
(正31、准31)

漁業者: 30数名

専業漁家: 10数名



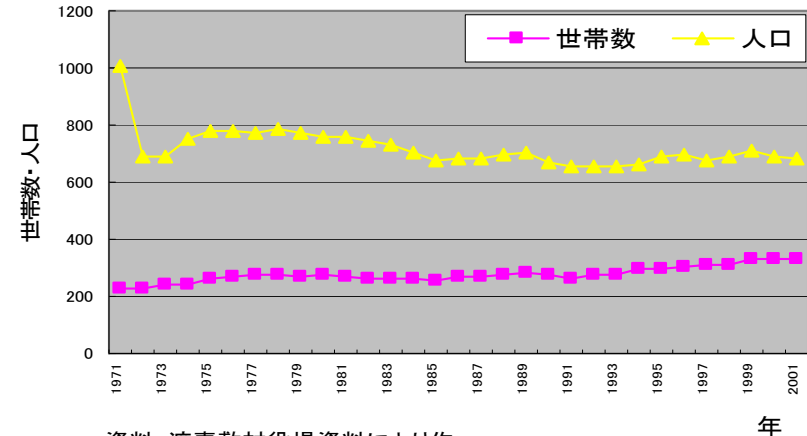
図1 座間味島の位置図

出処: Google-地図データ

地域経済パフォーマンス

人口：90年代以降世帯・人口が増加
 80年代まで低下か横這い
 全国の傾向とは異なる
 年齢：高齢化も止まっている
 経済：村内純生産・村民一人当たり
 純生産が増加、高位推移。

図2 渡嘉敷村における人口と世帯数の推移



資料：渡嘉敷村役場資料により作

表1 渡嘉敷村における村内純生産の動向

年	市町村内純生産 (百万円)			市町村内純生産 伸び率(%)			一人当たり市町村民所得 (千円)			一人当たり市町村民所得 伸び率(%)		
	沖縄県計	渡嘉敷村	座間味	沖縄県計	渡嘉敷村	座間味	沖縄県計	渡嘉敷村	座間味	沖縄県計	渡嘉敷村	座間味
S.59	1648326	1646	1103				1503	1206	1120			
60	1762724	1813	1119	6.9	10.1	1.5	1573	1234	1178	4.7	2.3	5.2
61	1876809	1726	1451	6.5	-4.8	29.7	1648	1329	1367	4.8	7.7	16.0
62	1944250	2004	1901	3.6	16.1	31.0	1711	1390	1446	3.8	4.6	5.8
63	2040395	2114	2518	4.9	5.5	32.5	1785	1556	1495	4.3	11.9	3.4
H.1	2175573	2210	2202	6.6	4.5	-12.5	1905	1717	1708	6.7	10.3	14.2
2	2277319	2338	2377	4.7	5.8	7.9	2005	2138	1819	5.2	24.5	6.5
3	2398073	2184	2648	5.3	-6.6	11.4	2064	2184	1922	2.9	2.2	5.7
4	2461983	2235	2390	2.7	2.3	-9.7	2082	2267	1918	0.9	3.8	-0.2
5	2514756	2754	3194	2.1	23.2	33.6	2113	2440	1926	1.5	7.6	0.4
6	2527194	2397	3805	0.5	-13.0	19.1	2130	2323	2149	0.8	-4.8	11.6
7	2562301	2084	3724	1.4	-13.1	-2.1	2139	2366	2066	0.4	1.9	-3.9
8	2464564	1947	3543	-3.8	-6.6	-4.9	2197	2600	2274	2.7	9.9	10.1
9	2615196	2319	4484	6.1	19.1	26.6	2168	2489	2595	-1.3	-4.3	14.1
10	2647568	2756	2898	1.2	18.8	-35.4	2185	2519	2372	0.8	1.2	-8.6

資料：沖縄県『沖縄統計表』により作成。

漁業から海業へ

@ 地域経済の展開過程－漁業から海洋レジャー産業へ

- ① カツオ漁業依存の地域経済（～1960年）
- ② 基地依存型経済の形成（1960～70年代中頃）
- ③ 基地経済から民宿経済への転換（1973年からの海洋観光）
- ④ 海水浴観光からダイビング案内事業へ（1980年代後半～）
近年では年間3～4万人規模の来客

@ 漁業者がレジャー経済の担い手

民宿：26件のうち、15件は漁協組合員が経営

登記ダイビング・ショップ：14件

うち島外出身者が1件のみ

うち12件は漁協組合員が経営



担い手は漁業者を中心とした地域の人々

漁協がコーディネーター

@漁協がコーディネーター的な役割

- ① 漁業資源を観光資源化
- ② 地域資源の管理者としての役割

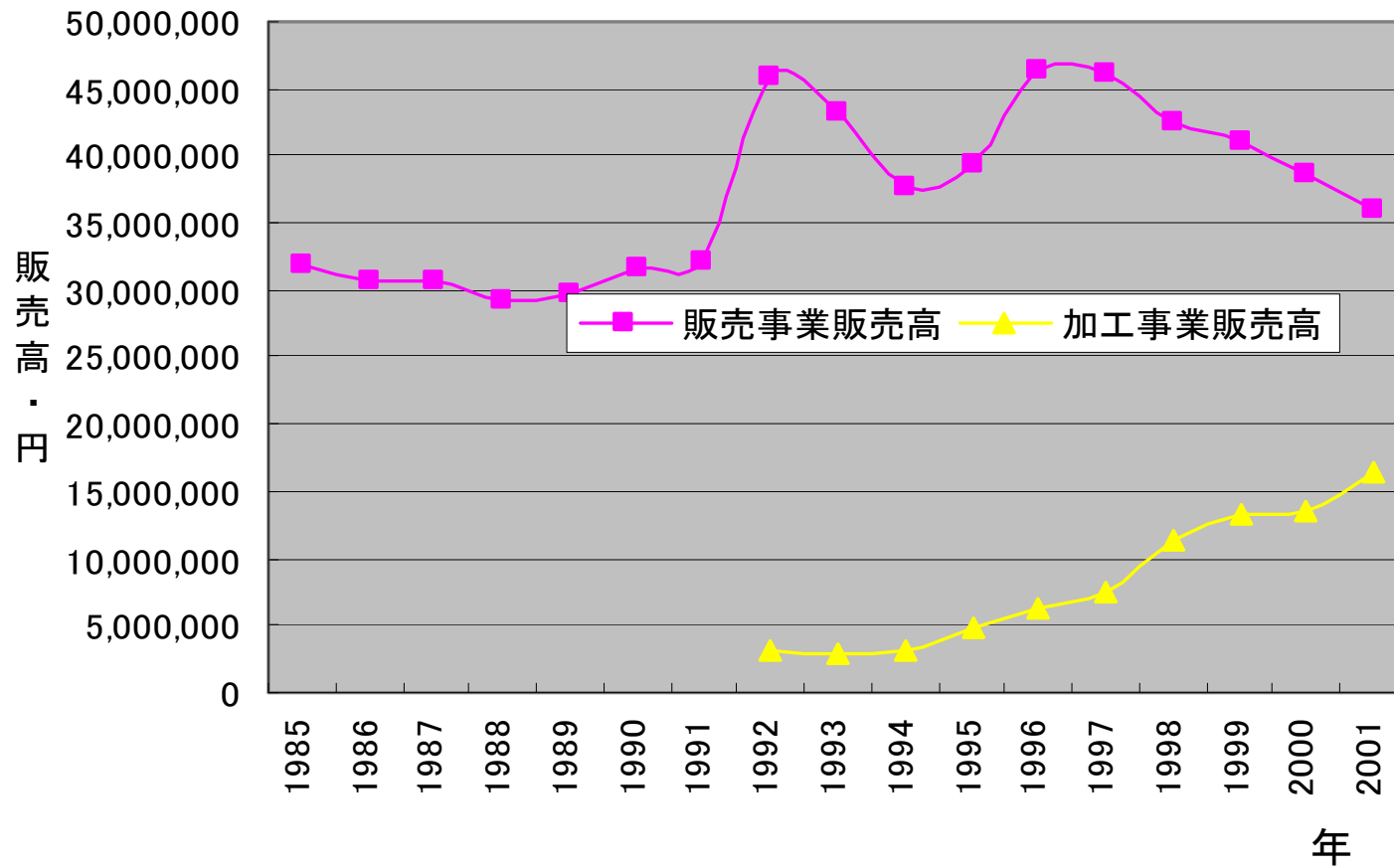
@「島内自己完結型経済」の形成

- ① 「全量買取共販」
生産者から全量買取り、買取価格は総会で決定、
生産者に「注文生産」
- ② 「加工事業」
買取った漁獲物を小売、または加工して観光需要に対応
- ③ 購買事業の全量漁協利用

@域内利益循環システムの構築

専業漁業者はその漁獲物を全量地元観光需要市場に対応
「利益の域内循環」が実現

図4 渡嘉敷漁協の小売事業および加工事業の販売額の推移



資料：渡嘉敷漁協『業務報告書により作成』。

意義

@ 地域経済の担い手主体である漁協の組織基盤が強化

① 組合員数が増加

89年59名、93年60名、98年65名、02年自然減で62名
組合加入希望者が数十名

② 漁協職員数が増加

10年間に3名増えて計7名

@ 利益配分の公平性

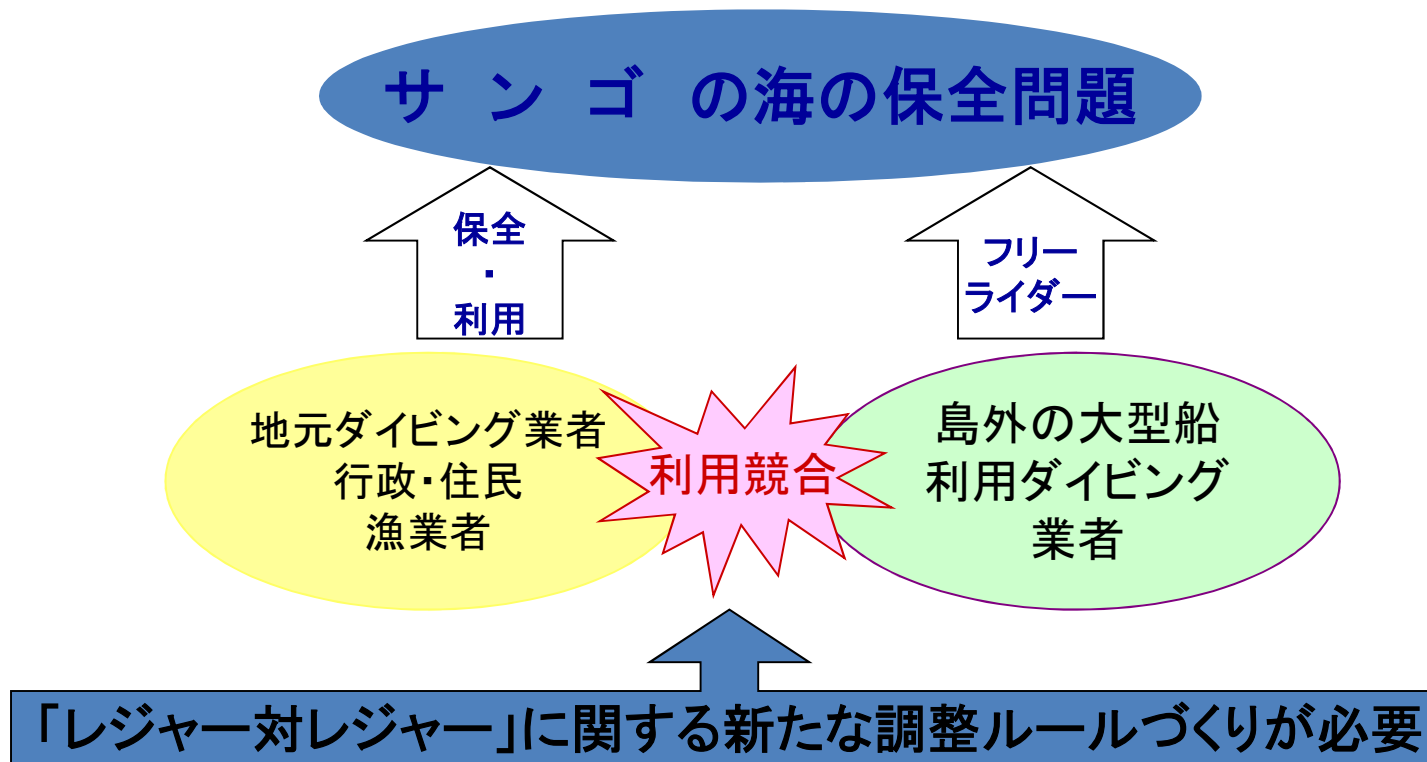
① 利益の地域内循環が実現されている。

@ 昭和60年代以降高い経済的パフォーマンスが達成

@ 地域経済の活性化

課題～地域資源の管理～

海の持続的利用を図るために島内業者と島外業者間における利用調整が大きな課題に



＜参考＞沖縄県座間味村

表 I 座間味村における漁業経営体数の推移

調査年次	沖縄県	座間味村
5次(73)		33
6次(78)	4401	38
7次(83)	4492	36
8次(88)	4235	46
9次(93)	3745	57
10次(98)	3604	57
資料：漁業センサスにより作成		

S.40～50:カツオ漁の衰退→漁業が不振→地域崩壊

(出稼ぎ・移住・漁協消滅)

S.50～ :戦跡観光→海洋博→総合振興

S.60～ :海洋レジャー対応→人口回復→漁業再開

事例2～愛知県日間賀島～

三河三島

@ 日間賀島は愛知県三河湾に浮かぶ面積わずか 0.77Km²、周囲およそ 5.5Kmの小さな島。名古屋駅から名鉄電車と海上タクシーを乗り継げばおよそ1時間強で島にたどり着ける。人口：2203人(04年時点)
漁協組合員：743名正506名)

@ 日間賀島^青の他、^赤佐久島、^紫篠島という地理条件が似た離島が存在。

@ 三河湾国定公園と南知多県立自然公園に指定



三河三島の過去

<佐久島>



面積がもっとも広く、大正期に一時
期人口が最も多い島。

<篠島>



広大な砂浜と美しい自然環境を有し、
古くから海水浴場の島として知られ、
観光業や大規模漁業も盛んで、日間
賀島の人々の憧れの島。

<日間賀島>

日間賀島の周辺は岩礁だらけで、昭和30年代の島には、これといった魅力もなく、
漁業も零細で、観光業も数件の旅館・ホテル程度である。「日間賀島経由篠島行き」
の満員フェリーから数人しか日間賀島に降りず、活気溢れる篠島を眺めながら、
「いつかああいう風になりたい」と羨む日間賀島の人々がいた。

三河三島の現在

①人口の比較

→篠島、佐久島と比較し

@人口がもっとも多い

@後継者がもっとも多い

→最も人口が多かった時との比較

@日間賀島 約15%減

@佐久島 約90%減

@篠島 約50%減

②年齢構成の比較

@若い年齢層がもっとも多い

③産業規模・産業構成の比較

@漁業・観光業がもっとも盛ん

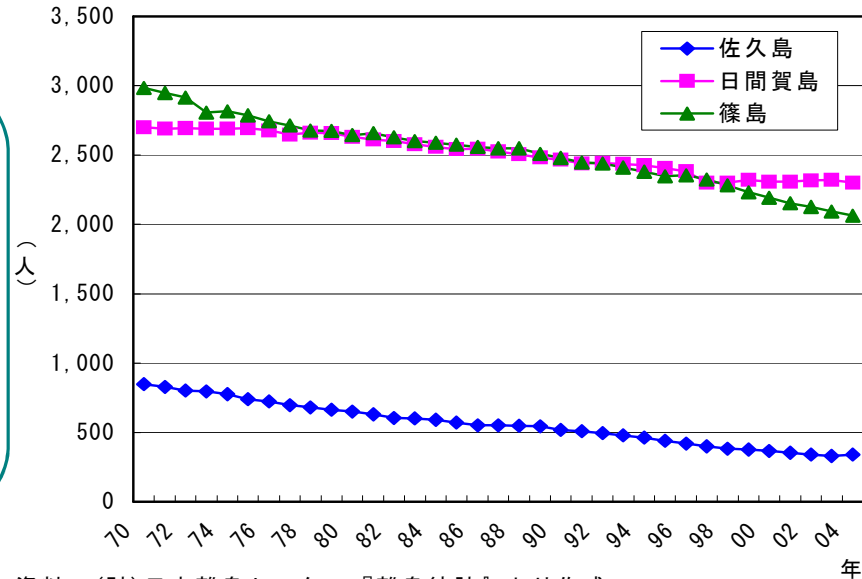
結果：発展する日間賀島

VS

衰退する佐久島

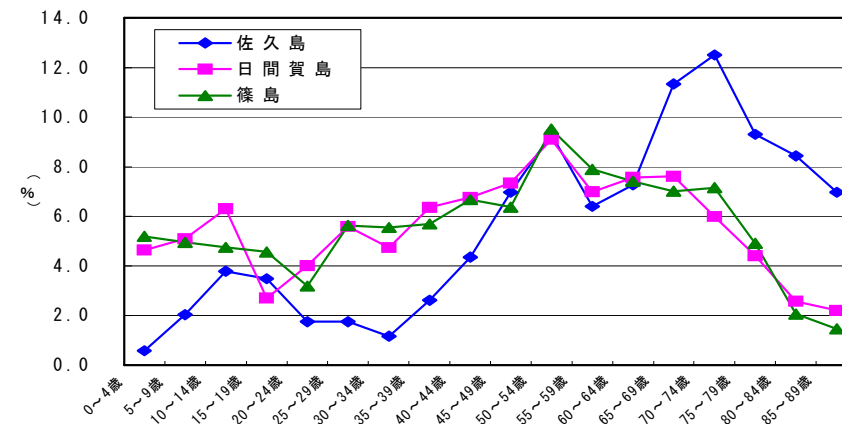
停滞している篠島

なぜか？



資料：(財)日本離島センター『離島統計』より作成。

図 日間賀島、佐久島、篠島における人口の推移

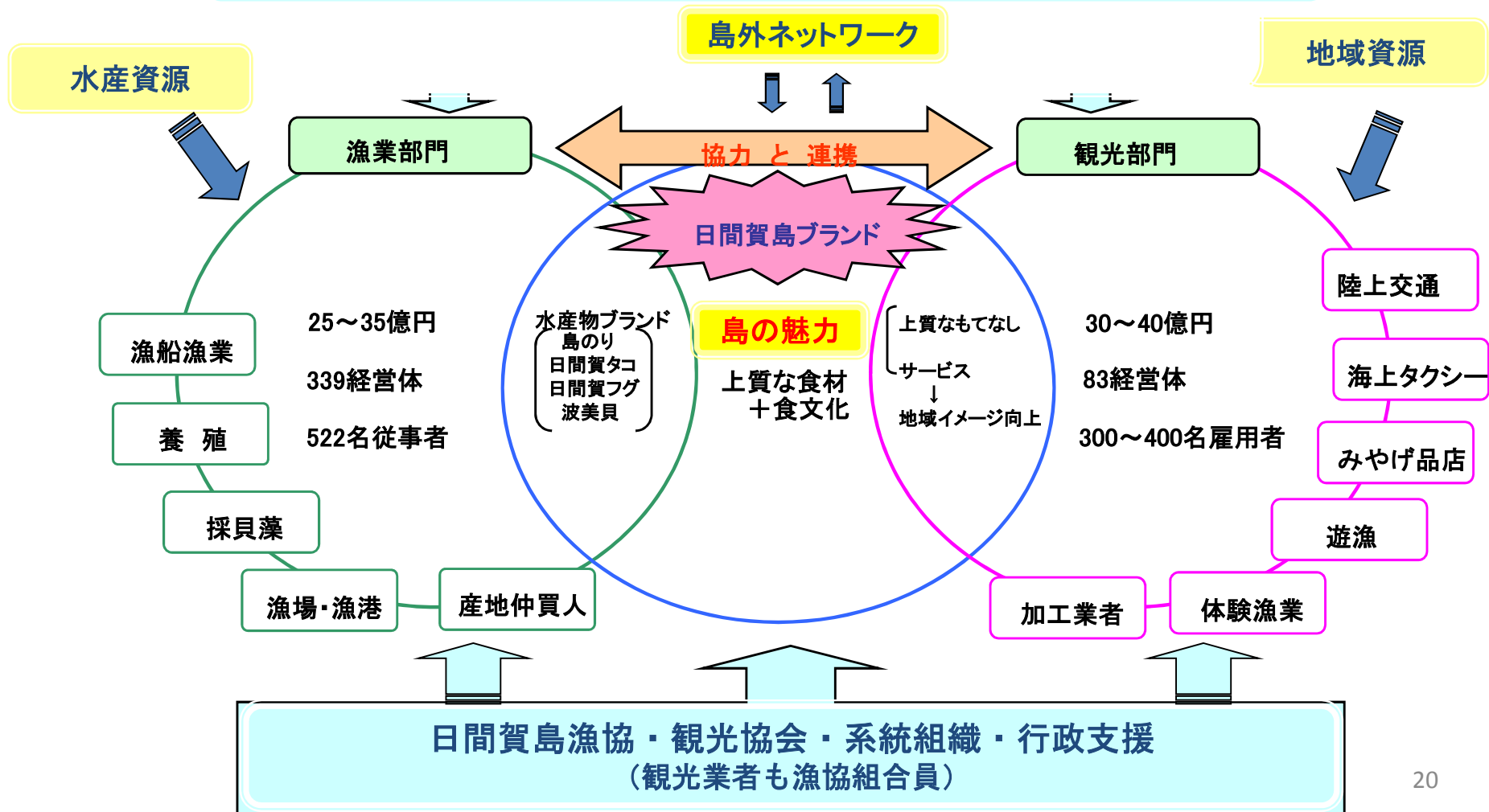


資料：(財)日本離島センター『離島統計』より作成。

図 日間賀島、佐久島、篠島における年齢別人口構成(2000年)

海業クラスタの形成

海業クラスタ：水産業を核とし、「日間賀島ブランド」を軸として形成された食観光産業のクラスタ。



<参考1：漁業規模の比較>

@ 漁業概要(2003年)

	経営体 (戸)	漁獲量 (トン)	漁獲金額 (億円)	経営体当たり漁獲金額 (百万円/戸)
佐久島	105	315	2.6	2.5
日間賀島	339	3925	26.4	7.8
篠島	214	6519	25.8	12.1

@ 堅調な漁業生産

日間賀島の漁業生産金額は25～35億円で推移

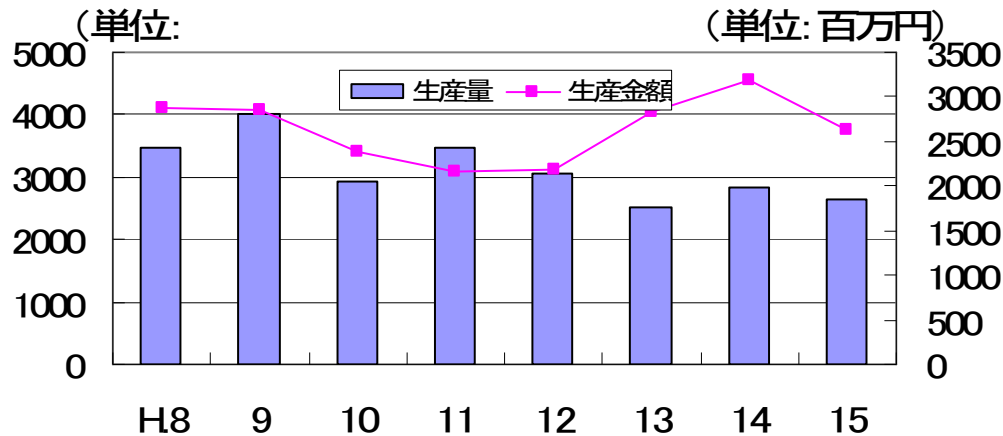


図6 日間賀島の漁業生産量・金額の推移

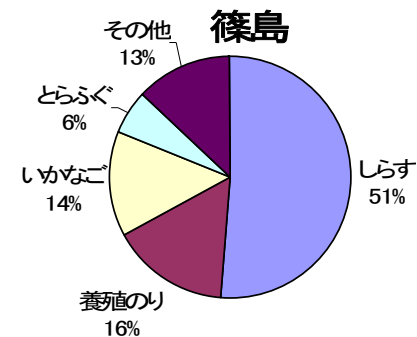
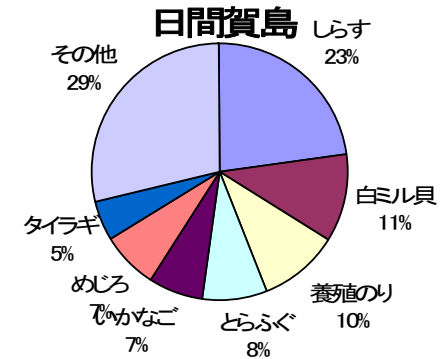
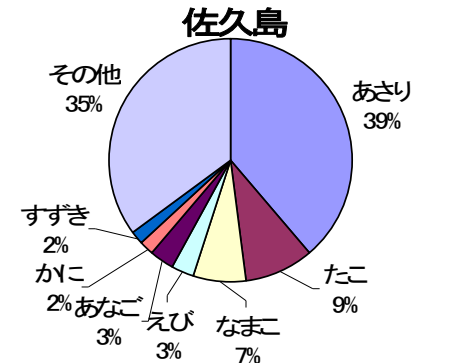


図 各島の魚種別漁獲金額比率

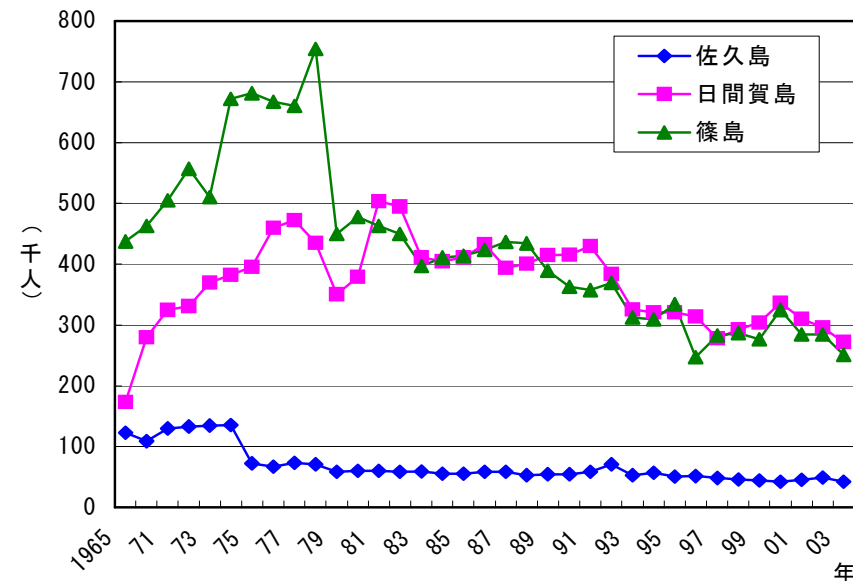
<参考2 地域観光業の比較(2003年現在) >

<日間賀島の観光業の産業規模>

近年の観光業の売上金額は約40～50億円となっており、観光業が日間賀島の基幹産業としての成長を遂げている。

	佐久島	日間賀島	篠島
旅館・ホテル	2 軒 100人	16 軒 1210人	15 軒 1235人
民宿	8 軒 285人	67 軒 2108人	30 軒 964人

注) 下記の人数は収容人数



資料：(財)日本離島センター『離島統計』より作成。

図 日間賀島、佐久島、篠島における観光客の推移

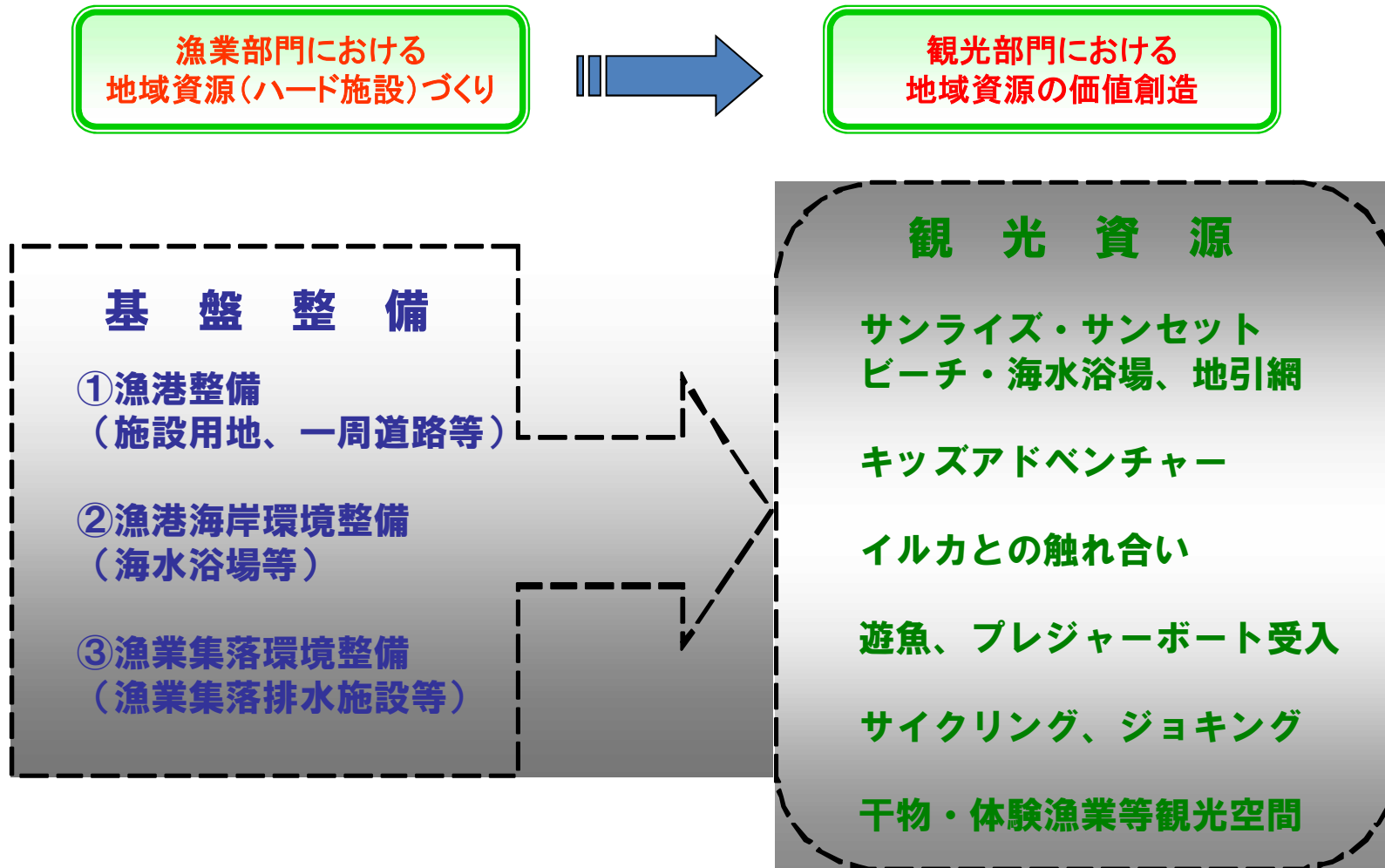
海業クラスターの形成背景

① 漁業と観光業の協力関係

@行政支援・漁業部門による地域資源（ハード施設）づくり



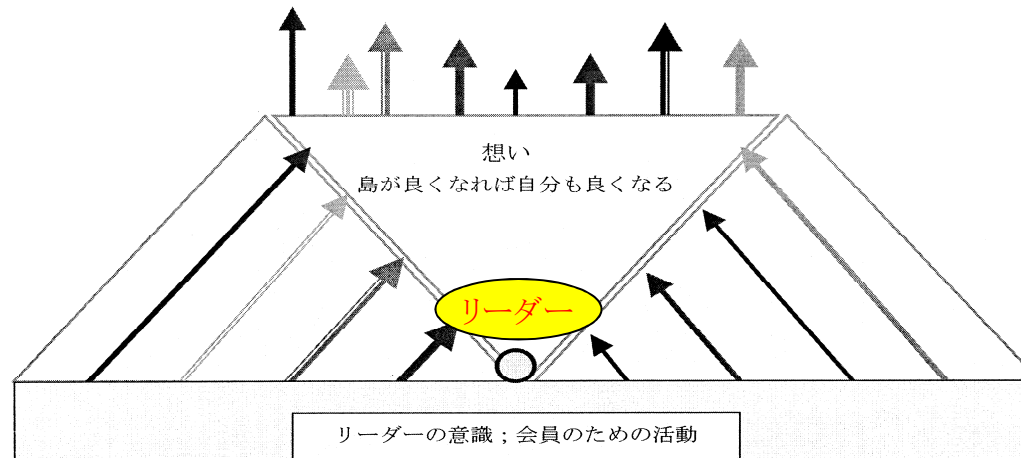
@観光部門による地域資源の価値創造と有機的連携による価値最大化



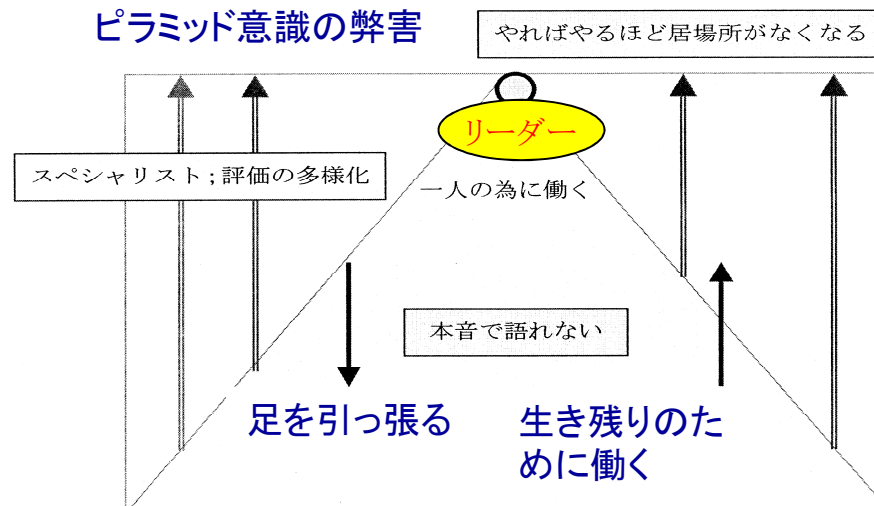
② 優れたリーダーの育成とリーダーシップの発揮

共生のリーダーシップ意識

オンリーワンの競争=島が一つに=一人一人が主役



ピラミッド意識の弊害



③ 海業を支える仕組み ～地域内での利益循環システムが形成

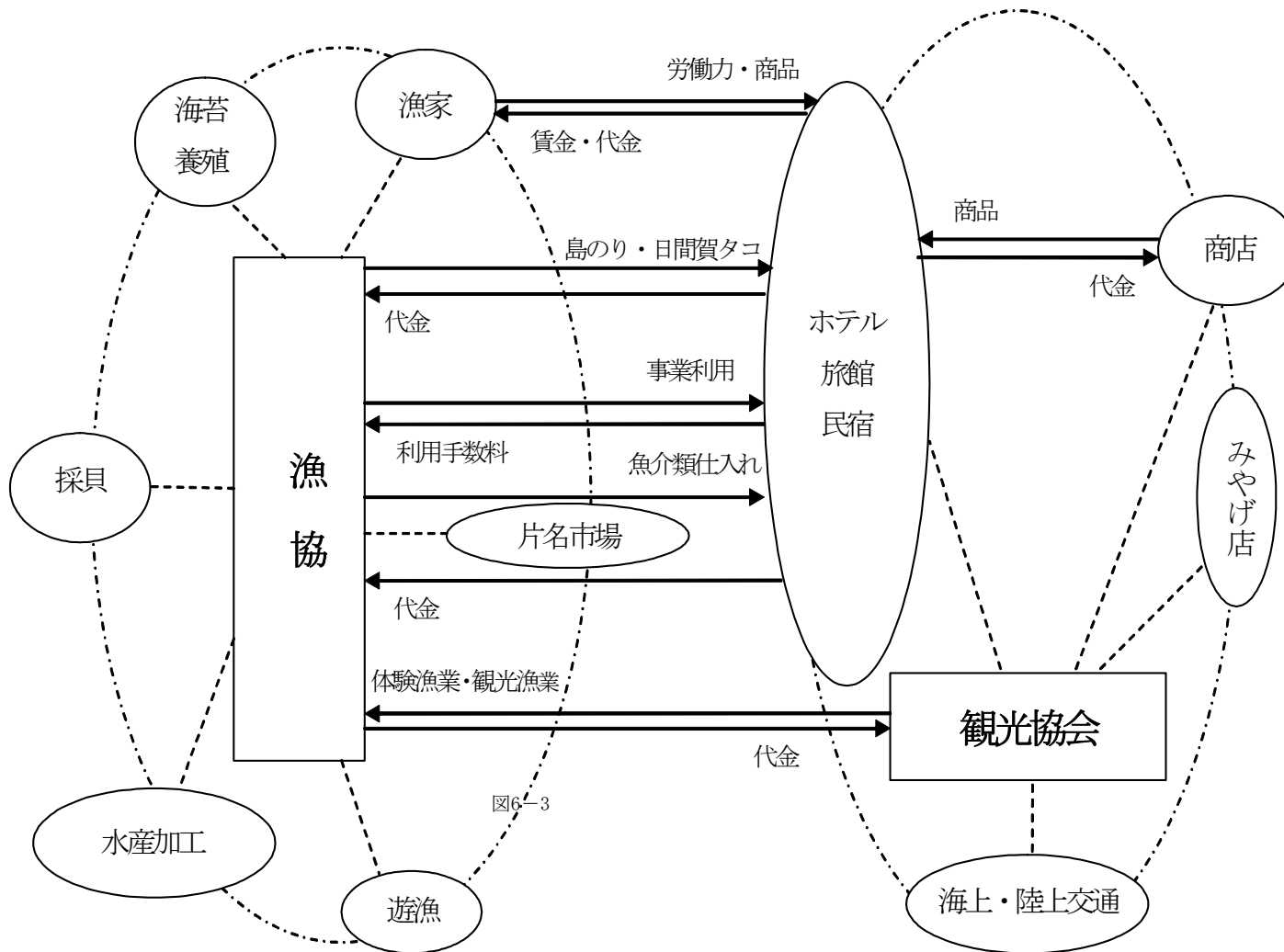


図 6-1 日間賀島における域内経済循環システム

注: 「-----」は組織上の関係性を示し、「→」は経済的な取引を意味している

④ 共生の精神

共生の精神を育む

Ex. 共通メニュー

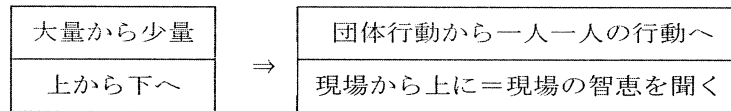
共通価格

共同PR

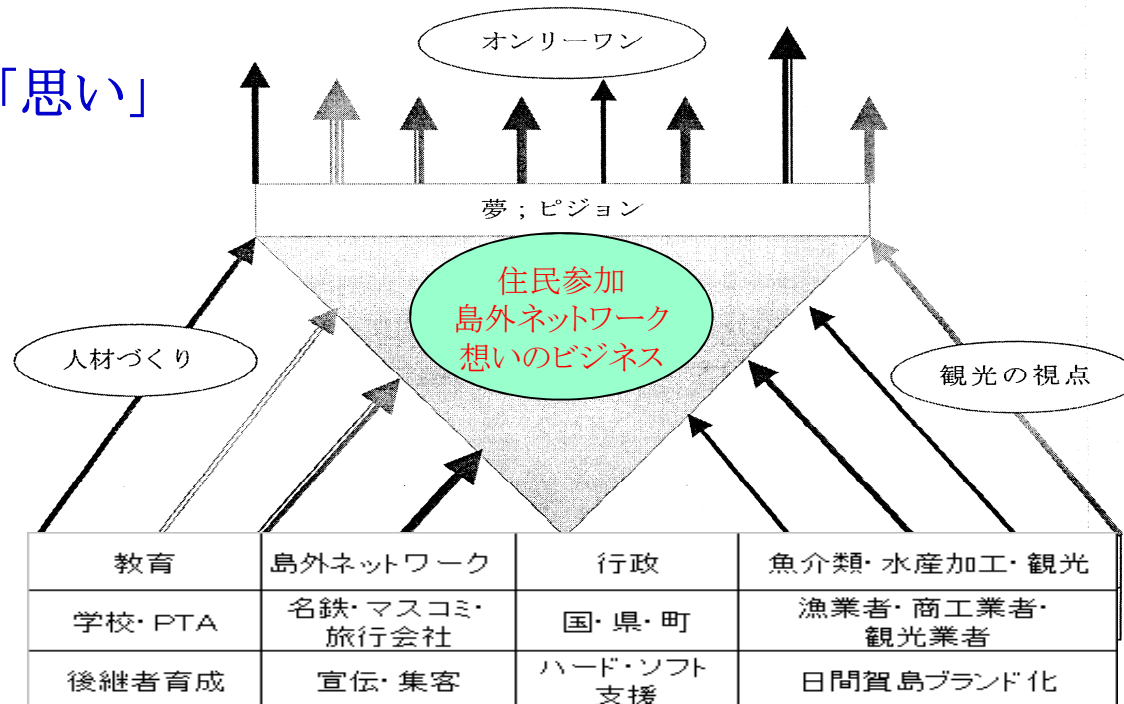
研修指導

出店アドバイス

想いで発想、収支で判断；経済が意識を動かす



⑤ 地域の「思い」



@ 漁業と観光業は相互依存関係

日間賀島に観光業がなかったら、漁業は続けられない

年代	観光業の展開	漁業の展開
明治時代	湯治、療養を目的とした観光客が訪れていた。旅館が4～5軒存在していた。	明治20年：共同販売所が設立 明治45年：日間賀島漁業組合設立
1950年代	釣りや海水浴が始まるが、5～10月のシーズン以外は観光客が少なく閑散としていた。	漁協が管理する札場に仲買が6人きていた。札場の外では多くの仲買が船で島に乗り込み魚の買付をした。
1960年代	料理を目玉とした観光が始まり、料理旅館が増える。	海苔養殖がはじまる 出稼ぎ労働者が増加する。 日間賀東と西の漁協が合併
1970年代	釣り宿が民宿を始める。旅館、民宿ともに増加。名鉄と旅館・民宿のタイアップが始まる。酌婦が出現。団体客の増加。	漁業者が民宿業を営むようになる オイルショックにより漁獲高減少 片名市場設立 →漁獲量が増加しはじめる
1980年代 ～90年代	周年・広域へと展開。観光客50万人突破。島のりのブランド化。海上タクシーの出現。タコの島、フグの島、イルカに会える島として売り出す。キャラバン活動。	海苔加工団地、海水浴場完成、西・東港完成 一周道路完成、下水道工事 船の大型化、魚探の導入始まる 90年代初頭、漁獲高がピークを迎える
～現在	体験漁業、総合学習、キッズアドベンチャー 民宿、旅館の改装ラッシュ	漁獲高30億円前後を維持。

日間賀島に漁業がなくなったら、だれも島には来ない

離島で今後行うべき取組・施策

地域資源を磨く

@ハード整備による地域資源の創造

①モノ・サービス・アイデアの供給にかかわるインフラの整備

②地域資源の態様・ビジネスモデルの態様に応じて多様性

Ex. 民宿・レストラン・島の受付施設

漁業体験・自然体験・海洋体験施設

レジャー施設

情報通信・ITインフラ

.....

.....

.....

地域資源を価値創造する

@ソフト支援による地域資源の価値創造

- ① 商品化(メニューづくり)、商品化のための整備…
- ② 事業仕組み(地域ビジネスモデル)の開発支援
Ex. 単独、協力、連携・アライアンス(利益循環の仕組み)、
融合、CB…
- ③ 担い手組織の育成(事業の担い手育成、事業支援組織の構築)
Ex. 個人・企業・NPO法人、漁協・商工・観光組織、公社、町村、
中間支援組織…
- ④ マーケティング支援
Ex. 商品/メニュー開発・人材・資金・管理運営ノウハウ・IT技術・
情報受発信…
- ⑤ 地域資源の管理
- ⑥ 人材育成
.....
.....

求められる条件整備

@ 地域資源利用における規制緩和

@ 新たな地域ビジネスを展開するための
条件不利性への支援